



U.A.センセン会長代行

島田 尚信

全労生の会議には1

996年から部会の一委員としてかわり、途中6年ほど抜けました。昨年10月に中

小企業対策部会会長を退任するまで、長きにわたりがかわらせて

いただきました。

当初、地方出身の労働組合役員にとっては

全労生の位置づけや生産性運動の本質がわかりませんが、かわることにより理解を深めることができま

小企業対策」は全労生発足以来ある部会なの

1000人未満企業に8割、1000人未満企業に5割の人が雇用されており、雇用労働者の総体は中小企業労働者なのです。

## 中小企業対策のための提言と実行に期待

対象とした提言・報告書がまとめられてきました。

中小労組の問題点は結局、規模から来るものであると結論づけられています。組合員が少なく、十分な活動資金がなく、教育ができ

そこで、「中小企業の今日的課題の克服」

中小労働者に魅力ある労働運動」という報告書を出しました。中小労働組合の悩みとその解決手段について成功事例を多く示してい

を持たなければならぬ、そして企業発展のために組合が必要であると経営者に理解させなければならぬという事です。報告書を

経営者の方々に是非読んでいただきたいと思

輩と知り合い、知識を吸収させてもらいました。大変感謝しています。

しかし、労働組合組織率は1000~999人企業で13.3%、1000人未満企業で僅か

ない。役員を選ぶにも選択範囲が狭い。財政力と人材の問題です。組合費を上げることが

ます。それぞれの組合が限られた資源のなかで、いろいろな工夫を

中小企業対策に終わりはなく、今後も中

全労生は中小労組や企業に視点を当てた活動をしています。「中

1%です。そのため、過去にいろいろな切り口で中小企業、組合を

合だけではできません役員は組合活動に情熱

が感じたいことは、組合

活性化し、組織化が進み、労働運動の中心となることを願っています。